



2015年  
5月29日  
発行

日本山岳会

# 「高尾の森」通信



小下沢風景林の森づくり活動

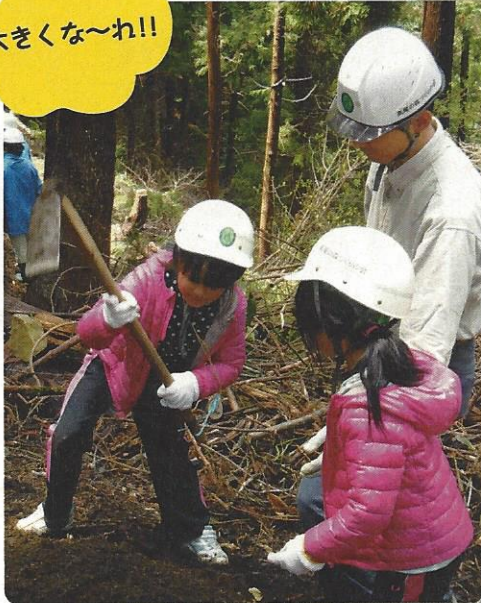
植樹祭前日に雨が降り、  
当日はまたとない快晴！  
また月曜日は雨と。  
まるで15周年を祝って  
くれているようです。



!! B班、植樹へ  
イザ出発!!



大きくな〜れ!!



紙袋に土を入れ  
植樹しました

みなさん  
満足いっぱい



ヒノキの間伐材で  
コースター  
作るよ





15周年を振り返って

川越尚子

# 候補地は 小下沢が最適！



発足当時のことについて原稿依頼を頂いて改めて十五年を振り返ってみた。

当時本部の自然保護委員長だった河西氏の「森づくりをしたい。森で作業をしよう」の夢は、ある席でふと漏らされた一言であったが、委員会の中であっという間に大きくなり、現実味を持って広がっていった。自然保護委員として活動していた龍氏も私も当然その流れの中に巻き込まれていった。細かい経緯の記憶は定かではないが、高尾山の麓を中心に探すことになり、河西氏、故伊藤敏氏（林野庁OB、元JAC理事）と私たち夫婦の四人で小下沢から堂所山方面、南高尾（グリーンセンター付近）などあちこちを歩き、候補地を探した。その結果小下沢が最適と言う結論に達した。

その後の河西氏は林野庁との交渉、JACに話をつけるなど大変なご苦労であった。私も平塚の森林管理署に同行して話し合いに立ち会わせていただいた。交渉が成立し作業小屋を作ることの許可も頂き、二人でほっとした記憶がある。龍氏と緑推に何度か足を運んだのも懐かしい思い出の一つである。話が持ち上がってから一年近くかかっただろうか。

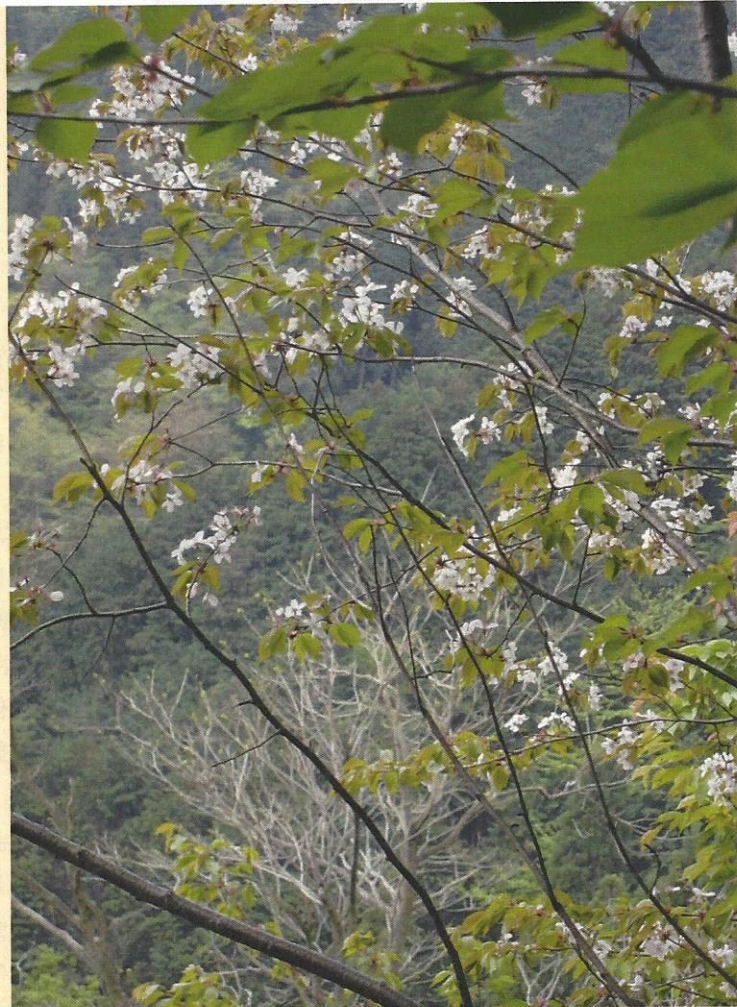
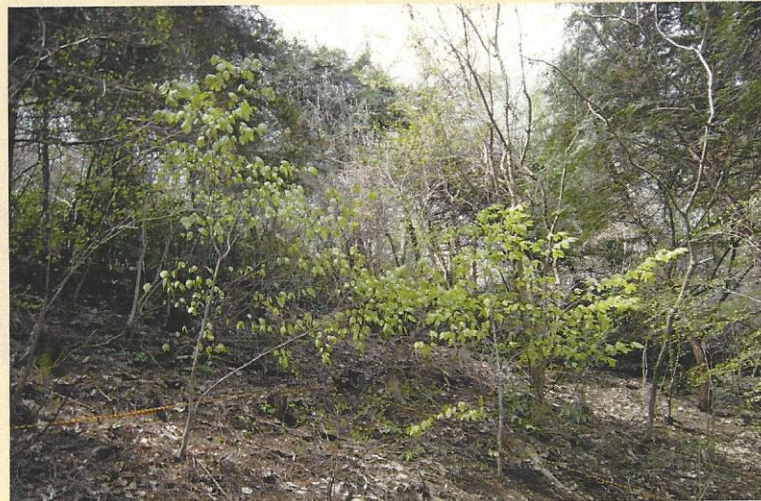
一回の作業日の出席者は十数名だったと思う。私が手書きの名簿を作成し出席者を確認した。その後一年位して山川氏が参加してくださり、一挙にすべての面で軌道に乗り発展していった。

伊藤氏も、また高尾の作業日を楽しみにしていた夫孝次も鬼籍に入り、時の流れを感じざるを得ない。夫が亡くなる一カ月ほど前に作製したベンチが長いこと道具小屋の前に置いてあったが今はどうなっているだろうか。

発足当時には考えも及ばないほどの隆盛を極め、内容も充実してきて嬉しい限りである。

今後益々の繁栄と会員の皆さまの楽しい憩いの場となることを期待したい。

寒冷地に多いブナも15年間懸命に生きています。



初年度の桜も15年も経つと幹の太さも20cmほどあり見事に咲いて楽しませてくれています。



2007年、03ベースがヘリ発着ベースに



2008年、木材搬出





楽しそうな笑顔もほころぶ最高の天候に恵まれた植樹祭となり、真心を込めた植樹風景が伝わってきます。

ベースに戻れば高尾名物の榎団子に舌鼓。街に繰り出したら今度は紅い笑顔が？



## 0.5haに520本植えました

1ユニット20本/100~200㎡ 13樹種(購入苗12種、自家生苗1樹種)

### A班

リーダー/ 小山  
副リーダー/ 守永、小池

**0.12ha 140本**

ヤマザクラ、ミズキ  
カスミザクラ、  
エドヒガン、トチノキ  
ウワミズザクラ、  
自オニグルミ

### B班

リーダー/ 湯川  
副リーダー/ 小南

**0.09ha 100本**

エドヒガン、  
ウワミズザクラ、  
トチノキ、ミズキ  
自オニグルミ

### C班

リーダー/ 大森  
副リーダー/ 高橋

**0.12ha 140本**

ヤマグリ、ホオノキ、  
カツラ、ヤマザクラ、  
イロハモミジ、  
イタヤカエデ、  
コハウチワカエデ

### D班

リーダー/ 仁藤  
副リーダー/ 堀田、小野

**0.13ha 100本**

ヤマグリ、カスミザクラ、  
イタヤカエデ、  
コハウチワカエデ  
自オニグルミ

### 親子スクール班

リーダー/ 金子  
副リーダー/ 山田

**0.03ha 40本**

カツラ、  
イロハモミジ



## 2015年度の運営体制

代表：河西瑛一郎 副代表：大蔵喜福 会計監査：川越尚子、鮫島弘吉郎

事務局長：龍久仁人

実行委員：石井倫行、一戸均、今藤洋海、大森茂、小木曾裕子、小口治、加藤信夫、川久保芳男、黒木邦夫、小原勝三、小南全功、小山圭司、齋藤俊彦、白井聡一、白沢紀明、諏訪智子、十河三郎、高橋賢次、谷亀明男、千谷恵子、鳥山喜章、仁藤正夫、馬場隆博、早川憲也、日向一人、日比野克彦、松川征夫、松隈茂、松田昭郎、宮本正彦、村田進、守永日出夫、山口竜朗、山崎喜春、湯川敏雄、渡辺美夫

事務局担当責任者：総務/馬場、渉外/川久保、会計/湯川、保険/白沢、企画/小口、広報/松川征、HP/十河

作業班リーダー：A班；守永/山口・早川、B班；小南/山崎喜・村田、  
(正/副) C班；大森/一戸・十河、D班；高橋/齋藤・日向

専門班リーダー：道具/寺田、安全/白沢、研修/馬場、機械作業/白沢、チェーンソー研修/皆川、環境・標識/川久保、道作り/松隈、もの作り小屋管理/宮本、キッチン/加藤信、写真映像/茂出木協、生態調査/千谷、苗木生育調査/白井、植樹苗木育成/白井、哺乳類撮影調査/白井、ラオス展示林プロジェクト/龍、三宅島緑化再生プロジェクト/渡辺美、気仙沼大島復興プロジェクト/小木曾、親子森林体験スクール/金子、父子キャンプ/黒木、専門学校生森林研修/大森、一丁整備プロジェクト/茂出木清、上柚木公園整備プロジェクト/松川征、ドローン森林調査/日比野

## 2015年度 主な活動日程

定例作業：4/11 5/9 6/13 7/11 8/8 9/12 10/10 11/14 12/12

H16.1/9 2/13 3/12

臨時作業：4/4 4/12 植樹祭 4/18 紅葉鑑賞会 11/28

森の研修会：6/6 9/5 12/5 H16.3/5

親子体験スクール：4/11 5/9 6/13

三宅島プロジェクト：5/22～24 10/23～25

気仙沼プロジェクト：6/19～22 11/20～23

ラオスプロジェクト：植林ツアー 7/4～9 間伐・調査 1/24～29

美林見学：天竜林業地 10/11～13

父子キャンプ：8/22～23

緑の感謝祭ふれあいフェスティバル：5/9, 10

下刈り補助作業：4月～12月第4土曜日

ものづくり小屋管理班：毎週木曜日、毎月第3土曜日

チェーンソー研修班：奇数月第4土曜日 道作り班：偶数月第4土曜日

生態調査班：毎月第1水曜日 機械作業班：毎月第3日曜日

リーダー会（※実行委員会）：4/6（※以下毎月定例作業日又はその週の月曜日）

総会：5/9 会計監査：4/17 5月実行委員会：4/27

通信発行：2/27 5/29 8/28 11/27 広報誌コンクール表彰式 5/29

15周年を祝う会：10/3

## その他の事項

1.

15年度「高尾の森づくり活動計画」について  
東京神奈川森林管理署から承認された全体計画、年度計画による。(以下略)





# チェーンソー研修会が目指すもの

—森林作業の安全を習得—

皆川恵男



1月24日、新しく講習会を終了したメンバー5名を迎え、定例のチェーンソー研修会（通算72回目）を開催しました。今回は、初心者研修として、ベースの平坦地でマシン操作を練習しました。まず材木を鋸断する実感を玉切りで勉強し、次に廃材を立ち木に見立て、伐倒の基本技である受け口・追い口切りを繰り返し練習しました。参加者は、いざやってみると思い通りにいかないことに悩みながらも真剣に学習していました。今後は、同じ練習を重ね、次の段階では傾斜地で同様の練習を行った後、立木の伐倒へと進みます。

チェーンソーを森林活動に利用することは体力の有効活用の観点から、極めて有用な手段ですが、人力で行うのに比して、効率の良さから得てして、基本を忘れ、安全チェックの欠略や見落としという過りを犯し勝ちです。

12年間、峯尾師匠から繰り返し受けた指導は、「森林作業の安全」にほかなりません。従って、この研修会のテーマは、チェーンソーの使用に習熟することばかりでなく、森林作業の安全を体得することにあります。

チェーンソークラブは、森林作業の安全教育の一翼を担いつつ、高尾の森づくりに貢献することをめざし、これからも充実させていきたいと考えます。

奇数月の  
第4土曜日に  
活動しています。

高尾の森づくりの会に法人会員として参加させて頂いたのは2009年春頃です。設立当初から当社の企業理念に相応しいCSRの取組みを模索していた時に、既に法人会員であった富士電機(株)を通じて当会の取

## 「水資源の最適解」の提供に取り組んでいます。

組みに出会い、早速入会をお願いさせて頂きました。それから6年、延べ400名以上が参加させて頂いております。

高尾の森で生まれた水は浅川となり八王子市と日野市を流れています。日野市には江戸時代に多摩川・浅川からひかれた118キロにも及ぶ農業用水路が今も市内を網の目のように流れています。その中で当社日野事業所は、日野市主催の「用水守り制度」に登録し、平山城址公園近くの用水路の管理を担い、日野市と八王子市主催の「多摩川・浅川クリーン作戦」には社員とその家族で参加し、日野市の平山橋から一番橋までの浅川沿いを清掃しています。

浅川は百草園付近でメタウォーター奥多摩の森で生まれた水が流れる多摩川に合流しています。多摩川は東京都民の大切な水源の1つです。私の住む八王子市狭間町では、多摩川から取水された水が羽村市の小作

浄水場で飲み水となり、管路を通じて昭島市に送られ、更に八王子市を經由して家庭の蛇口まで運ばれています。

また、使われた水は下水処理場で浄化されて川に放流され、海に流れ、いずれ雨となり山に降り注ぎます。

この循環を生むためには緑豊かな森が大切です。高尾の森づくりにには毎回10名程度が参加させて頂いております。今後は水資源の大切さをよく理解し、新入社員教育で植木の喜びを知った若手参加者に加え、さらに多くの参加者を増やし、高尾の森づくりの活動活発化と参加者との和づくりに貢献できれば良いと考えています。 古田且浩







## 「みどりとふれあうフェスティバル」報告 来年は皆さん来てね！

加藤清昭

5月9日～10日 日比谷公園・にれの木広場において、第25回「森と花の祭典・みどりの感謝祭」が開催され、その行事の一環として森林林業木材関連の企業・団体等が出展参加する「みどりとふれあうフェスティバル」に「高尾の森づくりの会」も例年通り参加しました。

当会の出展は大きく3区分であり、

①会の活動状況のパネル紹介と入会案内。また、主として高尾周辺の動植物などを蒐集した「横川コレクション」の展示。

②来場者参加型催事

内容として、檜の丸太切り、竹切りと竹ポックリ作り、クライミングボードによるクライミング体験。いずれも行列ができるほどの人気ぶりであった。

特に竹ポックリ作りは、昨年までの経験から整理券の発行と材料費の徴収を行ったが、隣接して同種催事を無料でやっている団体があり、競争が懸念されたが、用意した竹材すべてを使い切るほどの盛況であった。

③高尾の間伐材等を利用した木工作品の展示、販売

ものづくり班員を中心に数ヶ月（毎木曜、第3土曜）かけて制作した作品（本年は約50種類、350点あまり）を用意。多数の来場者に購入いただいた。

（販売品の主な物）まな板、ペン立て、靴ベラ、積み木、各種皿類、パズル、折り畳み椅子、巣箱、サンタクロース、雛飾り、その他。

また、今年は初めてカブトムシの幼虫や山椒の苗木の販売をしたが、これも好評であった。

2日間ものづくり班の皆様を中心とした関係各位のご協力により、また、5月らしい陽気のもと盛会のうち無事に終了しました。

只、会の定例作業、総会と日程が重複している関係か、ものづくり班以外の会員の来場者が思いのほか少ない印象であり、来年以降の会員へのPR方法に一考を要す、との声もありました。



## 第9回日本山岳会森づくり連絡協議会に参加して 瀬戸の薪炭林で禿山になった森が……！

石井倫行

今回の連絡協議会は、東海支部（名古屋）の猿投の森づくりの会のお世話で、瀬戸市の東京大学生態水文学研究所の施設をお借りして、4月18日、19日に開催されました。参加者は、日本山岳会の吉川常務理事、山田自然保護担当理事、川口自然保護委員長、東海、四国、広島、関西の各支部の関係者、高尾の森づくりの会（河西、龍、須川、白井、松川の各氏と石井）で総勢35名とのことでした。

18日は、2班に分かれてコバノミツバツツジが咲く、東大赤津研究林を見学し、その後宿舎に戻り、各支部の活動報告、生態水文学研究所長の蔵治准教授による「矢作川森の健康診断」による流域コモンズ（共用財産）の可能性についての基調講演を聴講しました。

愛知県の三河地方を流れる矢作川の健康診断については、2000年の東海豪雨がきっかけとなり、2005年から2014年までの10年間、森林ボランティアの団体と研究者との協働で、矢作川流域全体の岐阜県、長野県に亘って実施したとのこと。

19日は、山桜フィールド（JAC所有地）を視察して作業小屋建設予定地の綺麗な水の流れに癒され、猿投の森（県有林）では、巨木の山桜が沢山あるのに驚き、小雨の中、豪華な弁当を食べて解散となりました。

最後に、瀬戸の薪炭林で禿山になった森が、関係者の努力により復活して、近年ではギフチョウが飛ぶ自然豊かな森づくりを目指しているのに感動した連絡協議会でした。



# 事務局からのお知らせ

## 主な作業・行事記録

3/7(土) 森の研修会(自然観察)	17人
3/14(土) 定例作業(地ごしらえ)	96人
4/4(土) 臨時作業(地ごしらえ)	41人
4/11(土) 定例作業(地ごしらえ)	69人
4/12(日) 植樹祭	302人
4/18(土) 臨時作業(手直し)	37人
5/9(土) 定例作業(下刈り・つる切り)	100人
5/9~10 緑の感謝祭フェスティバル	のべ35人
5/16(土) 慈慶学園学生森林体験	56人
5/22~24 三宅島緑化再生プロジェクト	のべ69人

- 集合場所: 高尾森林事務所前広場
- 集合時間: 定例日は9:00までに集合して順次マイカー相乗りでベースへ移動します。(ベース9:20集合)
- 参加連絡: 事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。  
E-mail: ryu-kun@cablenet.ne.jp 電話: 090-4373-1555 はがき: 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402
- 定例作業への体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込み(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)の上、集合時間前までにおいでいただき、受付を行ってください。

## 入会者紹介

2月以降、次の方が入会されました。  
山本幸次、森泉祐二、井草富由美、井草宜一、北島洋二、原洋子、原恵一、濱島勇、前川幸雄、清水きよ子

## 2015年度 会費・保険料納入のお願い

会費納入がまだ済んでない方は急ぎ納入をお願いします。振込先等の詳細は2月発行の57号を参照下さい。会費納入が滞り連絡のない方は退会とみなし会員名簿の整理をさせていただきます。

## 今後の主な作業・行事スケジュール

6/6(土) 森の研修会(作業指針)
6/13(土) 定例作業(下刈り)
6/19~22 気仙沼大島森林再生プロジェクト
7/4~9 ラオス展示林造成プロジェクト植樹ツアー
7/11(土) 定例作業(下刈り)
8/8(土) 定例作業(下刈り)
8/22~23 清新小父子キャンプ

- 第3(土) 毎週(木) ものづくり・小屋管理班作業日
- 第1(水) 生態調査班作業日
- 第3(日) 機械作業班作業日
- 第4(土) 下刈り補助作業日

## 森の研修会に参加しよう

6月6日(土) 9:30ベース集合。テーマは作業指針。下刈り指針、歩道整備指針など、現地実習を交えて研修を行います。  
特に、下刈りについては、作業配置、実生・萌芽木の見極めと存置。歩道については、勾配の取り方と通路幅の確保をポイントに実習しますので、作業班リーダー・副リーダーはご参加下さい。

## 私たちの活動に ラオス国から感謝状



2012年から行っている日本-ラオス友好の森展示林造成プロジェクトに対し、2015年1月28日、ラオス国農林省普及局長から感謝状が贈呈されました。これまでの17ヘクタールに及ぶ植林に対する傑出した価値ある支援と貢献に感謝するというもの。このプロジェクトにラオスの人たちが大きな期待をしていることを強く感じました。

## 蔵書紹介

「八王子市史 自然編」(植物、動物、地層、気候)を購入しました。借りたい方は生態調査リーダー千谷さんまで。

## 会報誌 優秀賞受賞

第49回全国林業改良普及協会広報コンクールにて、わが会報誌が優秀賞となりました。  
ひとえに皆さん方のご協力の賜物です。ありがとうございました。

### 審査員からのコメント

「情報が充実し、読ませる工夫がされていて素晴らしいです。事務局だけで作っている会報誌が多い中、本誌は執筆(投稿)会員も多く、デザインは会員の方が頑張っていて、印刷も法人会員が協力していて、会の皆さんで作っていることが伝わってきます。HPと合わせて多くの会員のコミュニケーションメディアになっていると思います。」

### 編集後記

58号は植樹祭や総会など大きなイベントが中心となりましたが、限られた紙面ですのですべてを掲載できません。今後ますますホームページ(リーダー十河さん)との連携が必要となります。広報イコールホームページと会報誌ということでしょう。





**鳥** 瞰図という表現方法はレオナルドダ・ヴィンチの昔からあったようです。人々は鳥のように空から地上を見てみたいと思ったのでしょう。

ドローンという文明の利器が手頃な値段で手に入るようになって、地上に這いつくばって生きている我々に、その機会が与えられました。

高尾の森を空から見てみたい、ドローンにカメラを取り付けて上空から美しい森を撮影、その映像を広くホームページに公開し、森の素晴らしさをアピールしよう。

さらに高尾の会には、森の動物を動物カメラで撮影している人達（白井さん、山崎さん）がいます。カメラの前を動物が通ると自動的に映像を記録し、カメラの中のSDメモリに保存されます。タヌキやイノシシの親子が映ります。森の奥深く備え付けた沢山の動物カメラのSDメモリを定期的に回収するのは、大変な作業です。動物カメラに無線の機能を付けて、SDメモリに収録された動画をドローンで空から回収、野生動物の調査を効率的に行うシステムを作ろう。このように考えた私達はKDDI財団に助成金を申請し採択されたのです。

4月から作業が開始されました



計画は大きく分けて3つの部分があります

- 1 ドローンを購入、安全に飛ばす技術の習得
- 2 無線機能の付いた動物カメラの開発、ドローンに搭載する小型コンピュータの開発
- 3 高尾の森での実験

ドローンにはGPS機能が付いているので簡単に自動運転が出来ると思っていたが大変であることがわかってきました。ドローン

## ドローンで森を見る

日比野克彦



が墜落したり、首相官邸に飛びこむなどの事件が起きました。平地で飛ばすのと違って高尾のような山の中では気流も悪く、さらに空高く飛ばす必要があるので運転技術の習得が必要です。

都内では人家の無い広い、どこからも苦情のこない練習場所は見つかりません。魚沼の広い田んぼで出来ないか？の案が出され早速河西会長の知り合いの大平悦子市長にお願い、トントン拍子に魚沼のスキー場で飛ばすことになりました。

そんな折、リモコンヘリ、ドローン運転歴7年と言う人に操縦指導をお願いできることになりました。

ドローンの初飛行の条件がそろってきました。

次は、無線機能の付いた動物カメラの開発です

現在使用しているカメラは海外の製品でNHKのテレビ番組「ダーウィンが来た」にも使用されて、世界的に使われている優れたものです。

今回開発しようとしているのは名刺大の大きさのコンピュータに超小型のカメラ、赤外線機能、動物センサー、無線機能を付けた新たな無線機能付動物カメラです。それを動かすソフトウェアも作ります。

さらにドローンからデータを集める小型コンピュータのハードウェア、ソフトウェアも作ります。この部分はかなりのスキルを持った人達がいないと出来ません。

現役の大学教授の伊藤篤さん、現役のスーパーソフト設計者永井さん達3名の人々がボランティアで参加されます。

こんな訳で計画段階でいろいろなアイデアが出され、計画がどんどん広がっています。今更ながら高尾の森づくりの会の人材、人脈の広さに驚かされます。

5月16、17日魚沼市のご支援をいただき飛行の練習をしました。安全に十分注意して、ドローンを壊さないように進めてゆきました。将来ドローンから撮った森の画像を会報の表紙に飾る予定です。



## 会員紹介シリーズ② 大橋基光



### 「夏は山登り、冬はスキー」

この高尾の森通信には、第7号に駄文を載せたことがある。そのときはどうしてこのボランティアを選んだのかということだったので、地球温暖化が今の世界で一番の問題である。とすれば最良の対処方法として植林を選ぶべきだと書いた。

今回は**86歳になる「元気なジイサン」**に元気で作業ができる秘訣を書けと云うことらしい。

皆さんは皆さん自身にはできない秘密のトレーニングに僕が毎日励んでいる、そのバールを剥がしたいという期待があるようだ。しかし僕は何も特別なことはやっていない。

僕は所謂トレーニングは嫌いだ。僕の友人で毎日3時間飽きもしないでウォーキングをしている奴がいる。こんなのはゴメンだ。

結局好きなことをやりながら、それが身体にもいいというのが一番楽でやり易く長続きするのだと思う。僕の場合「夏は山登り、冬はスキー」これがモットーである。少しでもヒマを作って山やスキーに行く、これが大切なのである。

60代から70代にかけて何年かは年間100日以上山へ行っていた。ヨーロッパアルプスやカナダの山、ヒマラヤのトレッキングなどいろいろ行った。これ等外国の山の合間に日本の山に登った。これではトレーニングなどしている暇がないわけだ。

ところが80代になって気が付くと、今迄何十年と一緒に歩いていた仲間が一人欠け二人欠けで、大きい山へ行くのが難しくなって来た。丁度いいタイミングで自分の体力も急降下で、仕方なく最近、中央沿線や青梅線沿線の山へ一人で所謂トレーニングに出かけている。ひとつやっているのは、ここ数年自分だけの老化度検定で、春は雲取山、秋は滝子山の日帰り山行を行っている。尤も今年から雲取はきついで、七ツ石で帰ることにした。

まあこういうことをやっているの、何とか皆さんの驥尾について、高尾の森の作業をしてられるのだと思う次第である。

(H27. 4. 19)



## 専門班紹介 チェーンソー研修会



### 法人会員紹介

#### メタウォーター株式会社

メタウォーターは2008年4月に富士電機(株) 日本ガイシ(株) 水環境事業子会社の合併により誕生しました。当社では、いつでも、どこでも、だれもが、水と共に安心して生きることができる社会を願い、先進のコア技術で「水資源の最適解」の提供に取り組んでいます。主な事業は、浄水場や下水処理場の機械・電機設備の設計・建設から運転・維持管理等です。

CSR活動としては全国各地の河川の清掃活動を始め、夏にヒートアイランドを防ぐ再生水を使った打ち水大作戦、水の浄化や下水処理の大切さを学ぶ出前授業等を行っています。海外ではアンコールワット国際ハーフマラソンに協賛し、車載式浄水器システムやミストシャワーを提供しています。また、水環境学会で発表された優秀な論文には、メタウォーター賞を贈呈し、研究者支援にも力を入れています。

新入社員教育では研修室での座学だけでなく、奥多摩町協力の下「メタウォーター奥多摩の森」での植林活動を通じて水資源の大切さと、コミュニケーション、チームワーク、主体性・積極性を学ぶ1泊2日のカリキュラムも実施しています。



## 2014年度総会が開催されました

5月9日、定例作業を早めに切り上げて15年度総会が開催されました。代表挨拶の後、事務局から配付資料の総会提案事項に基づき、活動方針、予算決算、活動スケジュール等の議案を説明、質疑を経て一部修正を加え承認されました。修正は、ラオスプロジェクトに対し一般会計からの移し替え10万円の増額の要求について、暫定的に昨年同額とし、実行委員会で改めて議論することになりました。以下、2015年度総会提案事項の概要を掲げますが、紙数の関係で要点のみとなりましたので、詳細はホームページをご覧ください。

(文責) 龍久仁人



## 高尾の森づくりの会 2015年度総会提案事項 (2015.5.9総会、2015.4.27実行委員会)

### 2014年度を振り返って

2014年度は、当会にとって発足14年目の年であり、着実に活動を進めることができた1年となりました。活動の課題である次の4つのテーマについては、概ね年初の計画に沿って進めることができました。

1. 高尾の森の森林整備、2. 体験教育・啓発活動、3. リーダー育成・技術向上、4. 活動の面的な拡大…… (記述省略)  
以上の活動参加者数は、延べ3,800人に達しています。活動規模の拡大に伴わない活動準備や事務の負担も増えており、多くの方が負担を分け合って取り組んでいける体制作りがいっそう必要となって来ています。

安全については、幸い大きな事故なくこの1年を終えることができましたが、ここの活動フィールドは傾斜が急峻な上、作業日には大勢の人が入り込みますので事故の危険はいつも身の周りにあり、普段から小さな危険の芽を摘み取っていく心配りが大切です。みんなが楽しみながら安心して作業を行える環境を作り上げて行くことが何にもましてまず重要であると考えます。

会員の動向については、この1年間の新規入会者数26人、退会者等7人で、15年4月25日現在、個人会員数は229名、法人会員は1社退会して16社となっています。会員の拡充と会員の若返りも引き続き大きな課題です。

### 2015年度の方針

2015年度は、第3期5カ年計画の最終年度であり、年度内に次期5カ年計画を作成して森林管理署と協議し、向こう5年間の森づくり協定の更新を行なう節目の年です。

活動に当たっては4つの柱をさらに1歩進めるべく取り組んでいくこととします。特に前年度課題とした事柄について少しでも前進するよう努力が必要と考えます。継続は力なり、今までどおりできることを着実に進めていくことを会の基本的なポリシーとして進めて行きたいと思えます。

具体的な活動日程や体制等は別紙のとおりです。第15回植樹祭などの行事はすでに終了しましたが、5月末からは三宅島緑化再生プロジェクト、気仙沼大島プロジェクト、ラオス展示林造成プロジェクトなどの活動が予定されており、高尾の森の定例作業では、夏の下刈り、秋の間伐、冬の地ごしらえといつもの地道な作業を積み重ねていきます。また、普及啓発活動やドローンによる調査、各種専門班活動など、会員の創意工夫による闊達な活動を進めていきます。

当会は50年の長期計画を持っていますが、昨年は検討委員会での見直し作業の結果を踏まえて中長期計画概要版を作成しました。本年度はこれをもとに第4期5カ年計画を織り込んだ新たな長期計画を策定します。新たなステージを迎えるに当たり、運営体制の若返りも大きな課題となっています。今年はそのような議論を進める年にしたいと思えます。

会員のすべてが自主的に楽しく活動できることが基本であり、それが社会的にも評価されることとしてつながっていくような活動を今年も行っていきたいと思えます。また新しく入会された会員の方々が会の雰囲気すぐに馴染んで、新しい感覚で大きな役割を果たしていただけるような体制を築いていきたいと思えます。会員の皆様のご協力をお願いします。

別紙1. 2014年度決算報告と2015年度予算

別紙2. 2015年度運営体制

別紙3. 2015年度の主な活動日程

別紙4. その他の事項





## 第15回植樹祭の記録 龍 久仁人

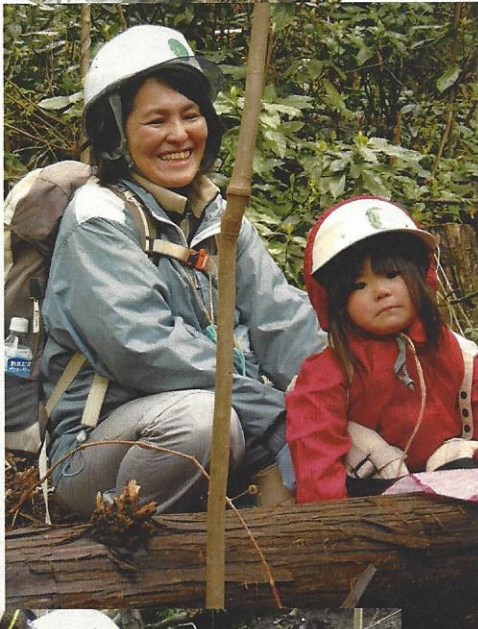
4月12日（日）、穏やかな日和のなか第15回高尾の森植樹祭が開催されました。参加者は302名、内訳は個人会員90名、法人会員129名、一般参加83名と、今年も大勢の参加者で賑いました。前日の最終準備の日は朝から雨でしたが、今年は2月、3月の作業が雪にたたられずに順調に進んでいたため、特に無理なく植樹の日を迎えることが出来ました。この日に予定していた親子体験スクールの植樹は中止になり、苗木は仮伏せして次回の5月定例作業日に植え直しを行ないました。

植樹祭当日は気持ちよく晴れ上がり、4班に分かれてカツラ、ヤマザクラ、トチノキなど13樹種520本の広葉樹の植栽を行ないました。各班とも相当な急斜面で、なかには転石だらけのガレ場を受け持った班もありましたが、歩道や柵の整備、周到的な誘導など各班で工夫を凝らした対応で事故なく終わることが出来ました。植樹は午前中にはほぼ完了し、現地で昼食のあとはベースに戻って、トン汁、丸太切り、生物展示などを楽しみ、団欒の時間を過ごしました。

翌日からは雨の日が続き、苗木にとっては恵みの雨になったと思いますが、これが前後に1日でもずれていたらと思うと、いつもながらのつきに感謝するのみです。

これまでに植えた本数は、14ヘクタール1万8千本に達し、小下沢でのギャップ箇所での植樹はほぼ完了しました。今後は、これまでの延長線上では植樹場所の確保が難しくなっており、小下沢国有林の管理方針について森林管理署と協議を行って行きたいと思えます。

1週間後の植樹手直しでは、概ね活着状況は良好であるとの報告を貰っています。準備段階から、植樹当日、その後のフォローに至るまで、各班リーダー、各担当スタッフの皆様お疲れさまでした。

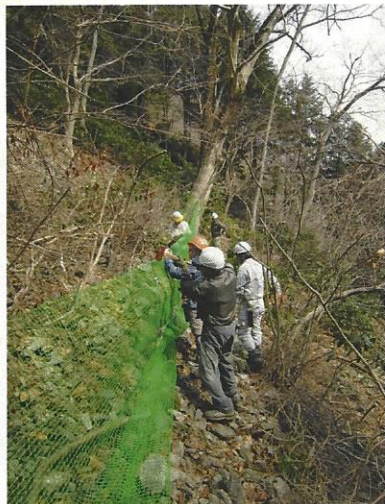




目次	小下沢NOTE .....	02	法人紹介 .....	09
	15周年を振り返って .....	03	ドローンで森を見る .....	09
	第15回植樹祭の記録 .....	04	緑とふれあうフェスティバル .....	11
	2015年度総会提案事項(抜粋) .....	06	森づくり協議会に参加して .....	11
	会員紹介 .....	08	事務局だより .....	12
	チェーンソー研修会 .....	08		

## 小下沢NOTE 春

### 3月定例作業



落石防止ネットを据え付ける(D班)



架線を使って客土の運搬(D班)



**順調な進み具合に余裕が！  
一方ガレ場のD班は安全予防に全力！**

心地よい汗を流した後の  
爽快感が伝わってきます(C班↑)(B班→)

### 4月定例作業

**本番も間近に。篠だけへの樹札取り付けも力が入る。  
D班への支援体制も万全！嬉しい限り**



樹札取り付けと班分け作業



架線による客土の運搬

客土のリレー運搬他班からの応援

慈慶学園のみなさんと集合！



### 5月9日親子スクール



あちらの親子もこちらの親子も  
みんな一生懸命



暖かい気配り  
ありがとう。  
どなたでしょう？